

「JAグループ農業機械検定」

JA農業機械担当者のスキルアップ

農業機械は、年々高性能・高機能化し、JA農業機械担当者の日常業務（商品説明、納品試運転、修理整備など）に求められる知識と技術は多様で広範囲なものとなっています。そのため、全農では、JA農業機械担当者のスキルアップを目的に、平成23年度から「JAグループ農業機械検定」を実施しています。

検定制度の概要

農業機械に関係する国家資格として「農業機械整備技能検定」がありますが、この内容は農業機械全般についての整備技能に関するものが主体となっています。そのため、「JAグループ農業機械検定」では、実際の修理整備や納品指導に必要なメーカー固有の機能・新技術など、より業務に密着した内容を取り入れています。

また、1級と2級を設定し、経験年数に応じた知識習得・スキルアップを図れるようにしています（表1）。

合格への道①：学科試験

この検定は学科試験と実技試験が行われ、学科試験に合格しないと実技試験に進めません。そのため、受検者はまず、基礎知識から機種別機能まで網羅された「練習問題集」に取り組み、学科試験合格をめざします。

2級では幅広い機種・型式の取扱

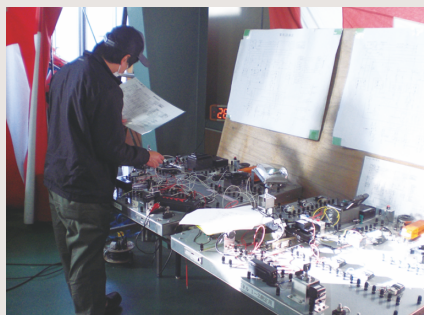
実技試験の様子



パソコンを使用した故障診断（1級トラクタ）



こぎ深さ自動の作動確認（2級コンバイン）



電気回路の結線と不良箇所特定（1級電装）



施肥機のブラシ点検（2級田植機）

操作や点検方法に関する内容、1級では主要機種・型式の自動化装置の仕組み、点検修理方法に関する内容が出題されます。

合格への道②：実技試験

学科試験合格者は実技試験に進みます。実技試験は、事前に課題が公表され、各自の自主練習、試験前日の講習会が行われます。実技試験は、トラクタ、田植機、コンバイン、電装（電装は1級のみ）について、2級では各種機能の取扱操作・作動確認、1級では各種機能の故障診断と修理調整が正しく実施できるかが確認されます。

これまでの認定実績

平成23年度から令和3年度までに、1級77名、2級325名、累計402名がJAグループ農機サービス士として認定されています。

農機サービス士として認定された皆さんからは「実際の修理整備業務に直接役立った」「技術の足りない部分や弱い部分がわかった」「農家対応や後輩指導に自信が持てた」などの評価をいただいています。



全農では「JAグループ農業機械検定制度」を通じて、JAグループ農業機械関係者のさらなる知識の習得と技術の研鑽を促し「農業機械はJAに任せれば安心」という信頼をいっそう高められるよう、引き続き取り組んでまいります。

【全農 耕種総合対策部

営農・技術センター 生産資材研究室】

表1 受検資格と必要な知識

等級	習得目標	受検資格（経験年数）
農機サービス1級	電装・油圧・自動化装置、新機能に対応できる知識、修理整備技術が規定の基準に達している	2級合格、かつ実務経験5年以上
農機サービス2級	商品の特長、取扱操作・安全操作、日常点検に対応できる知識、技術が規定の基準に達している	実務経験2年以上